

第46回 北信越中学校総合競技大会 ソフトテニス競技

競技上の注意（団体戦）

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック、大会要項及び要項付記に従って行う。
- 2 コート割り及び進行、試合開始時刻は別表のとおりとするが、本部の判断でコート変更や複数のコートに開いて実施する場合は放送又は各県競技専門委員長（部長）を通して連絡する。選手は時間を守ってコートへ入る。その際、他の試合の迷惑にならないようにする。
- 3 選手変更がある場合、所定の用紙（参加校には大会本部より事前に配布）を用い、関係各県競技専門委員長（部長）を通して届ける。なお、監督会議後の変更は認めない。
- 4 マッチは7ゲームとする。
- 5 小さい番号のチームが審判台から見て左側のベンチに入る。ベンチに入れるのは登録選手及び監督またはコーチどちらか1名とする。
- 6 使用球は公認球(白色)を使用する。令和7年度は男女ともにケンコーボールとする。
- 7 トスはコート上で、各対戦の前に行う。
- 8 円陣等を行ってもよいが、整列前に行い、進行の妨げにならないように配慮する。
- 9 3ペアの点取り対抗戦とし、2点を得たチームを勝ちとするが、1回戦のみ3対戦すべてを行う。
- 10 オーダー用紙（選手登録名簿通りに氏名を記入する）は、対戦相手が決まり次第、ただちに本部の受付に監督が提出する。1回戦は監督会議終了後、すぐに本部の受付に提出する。
- 11 ベンチに入る監督またはコーチ、選手は必ず着席すること。次の対戦の選手は除く。
- 12 監督またはコーチがマッチ内に選手に助言する場合は、チェンジサイズ時またはファイナルゲーム前に移動を含め1分以内とし、ベンチに座ったままで助言する。レッツプレイのコール後、動きがない場合は警告（イエローカード）を与える。複数のコートで実施する場合は、監督またはコーチがベンチを移動して行う。中央にベンチを移動しても良い。
なお、インプレー中は監督またはコーチは移動しない。
- 13 異議の申し立てはできないが、質問等はチームの監督（コーチ）またはそのプレイヤーのいずれかが行うことができる。マッチに支障のないようにすることとし、異議申し立てとみられる態度や発言については、警告（イエローカード）の対象とする。
- 14 競技規則第15条（プレイヤーの心得）について
 - (1) プレイヤーはルール・マナーを尊重する。また、過度のかけ声または相手を不快にする態度・発声は、インプレー中の発声を含め、警告（イエローカード）の対象とする。
 - (2) プレイヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーする。遅延行為に対しては警告（イエローカード）を与える。レディのコール後、助言を受けるためにベンチへ戻る、タイムを得ずにシューズの紐を縛り直す等の行為は慎むこと。
 - (3) 応援は進行の妨げにならないように、過度（審判のコールやプレーに支障が出る）にならないようにする。相手を不快にさせたり、他のコートに迷惑をかける応援をしたりした場合、1回目は監督に説明し注意を促すが、2回目以降は監督の説明の後、警告（イエローカード）を与える。また、応援者を退場させることもある。
- 15 熱中症対策のため、「チェンジサイズ時及びファイナルゲームのチェンジサイズ時の給水」を認める。その際、あらかじめ審判台の下に水分を置いておき、打ち合わせなどを行わず、給水後速やかにプレーの準備をすること。
- 16 熱中症対策として、自分の試合が終わった選手はコート外での待機を認める。ただし、一度コート外に出た場合は、団体戦終了の挨拶まではコート内に戻ることはできない。
- 17 ヒートルールの適用については、監督会議で周知する。

競技上の注意（個人戦）

- 1 競技は(公財)日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック、大会要項及び要項付記に従って行う。
- 2 コート割り及び進行、試合開始時刻は別表のとおりとするが、本部の判断で変更する場合は放送又は各県競技専門委員長（部長）を通して連絡する。選手は時間を守ってコートへ入る。その際、他の試合の迷惑にならないようにする。
- 3 選手変更は原則認められない。但し、ペアの1名がけが・病気等で出場不可能になった場合に限り、所定の用紙（参加校には大会本部より事前に配布）を用い、各県競技専門委員長（部長）を通して届けること。なお、監督会議後の変更は認めない。
- 4 マッチは7ゲームとする。
- 5 小さい番号のチームが審判台から見て左側のベンチに入る。ベンチに入れるのは登録選手及び監督、またはコーチどちらか1名とする。
- 6 使用球は公認球(白色)を使用する。令和7年度は男子：アカエムボール、女子：ダンロップボールとする。
- 7 トスはコート上で行う。
- 8 2ペア以上出場し、同時にマッチが行われている場合は、監督（コーチ）がベンチを移動し、助言することができる。その場合は他のマッチに支障が生じないように移動し、元のコートに戻ることはできない。ただし、コートが隣接している場合は、コートとコートの間まで移動し、助言することができる。
- 9 監督またはコーチがマッチ内に選手に助言する場合は、チェンジサイズ時またはファイナルゲーム前の移動を含め1分以内とし、ベンチに座ったまま助言する。レッツプレイのコール後、動きがない場合は警告（イエローカード）を与える。
- 10 異議の申し立てはできないが、質問等はそのプレーヤーが行うことができる。マッチに支障のないようにすることとし、異議申し立てとみられる態度や発言については、警告（イエローカード）の対象とする。
- 11 競技規則第15条（プレーヤーの心得）について
 - (1) プレーヤーはルール・マナーを尊重する。また、過度のかけ声または相手を不快にする態度・発声は、インプレー中の発声を含め、警告（イエローカード）の対象とする。
 - (2) プレーヤーはアンパイヤーの指示に従い、マッチの開始から終了まで連続的にプレーする。遅延行為に対しては警告（イエローカード）を与える。レディのコール後、助言を受けるためにベンチへ戻る、タイムを得ずにシューズの紐を縛り直す等の行為は慎むこと。
 - (3) 応援はプレーをスムーズに進行させるため、過度（審判のコールやプレーに支障が出る）にならないようにする。相手を不快にさせたり、他のコートに迷惑をかけたりする応援をした場合、1回目は監督に説明し注意を促すが、2回目以降は監督への説明の後、警告（イエローカード）を与える。また、応援者を退場させることもある。
 - (4) 声やリズムをそろえて行う集団応援は認めない。また、うちわやペットボトル等の道具を使った応援は行わない。
- 12 熱中症対策のため、「チェンジサイズ時及びファイナルゲームのチェンジサイズ時の給水」を認める。その際、あらかじめ審判台の下に水分を置いておき、打ち合わせなどを行わず、給水後速やかにプレーの準備をすること。
- 13 ヒートルールの適用については、監督会議で周知する。